

富山市科学博物館研究報告

第36号 (2012)

原 著

- 佐藤 正・後藤道治・藤田将人・田中 豊：富山県有峰地域の手取層群から産出したジュラ紀後期アンモナイト化石 1

短 報

- 南部久男・白石敏明：富山市におけるツキノワグマによる2006年秋のカキノキの痕跡 9
朴木英治・渡辺 幸一：立山における酸性雨観測結果(2011) 13

資 料

- 二橋 亮・二橋弘之・新堀修・川村日出男：富山県のトンボ (2011年度記録) 29
根来 尚：富山県におけるハナバチ類の訪花記録 55
南部久男：富山市におけるツキノワグマの出没記録 (2011年) 129

要 旨 集

原著

佐藤 正・後藤道治・藤田将人・田中 豊：富山県有峰地域の手取層群から産出したジュラ紀後期アンモナイト化石

富山県有峰地域の東坂森谷の上部ジュラ系手取層群九頭竜亜層群有峰層から、*Perisphinctes* (*Perisphinctes*) cf. *ozikaensis* と、属種不明ではあるがおそらく *Dichotomosphinctes* sp. とと思われるアンモナイト、2 個体が産出したので記載する。*Perisphinctes* (*Perisphinctes*) cf. *ozikaensis* は手取層群からは初めての報告である。*Dichotomosphinctes* 属のアンモナイトは富山市南部の桐谷からも報告されている (Sato, 1962)。これらのアンモナイトの産出は、富山県内の九頭竜亜層群の年代を追認するために重要であるとともに、手取層群と日本における同時代のアンモナイトを産出した地層との対比に有益であると考えられる。

短報

南部久男・白石俊明：富山県におけるツキノワグマによる 2006 年秋のカキノキの痕跡

富山県では 2006 年秋にツキノワグマが大量出沒し、出沒の基礎情報を得るため、2007 年 1 月～9 月にかけて、カキノキに残る痕跡（爪跡）を県内の河川流域、山麓等 24 地域で調査した。その結果、2006 年秋のツキノワグマの爪跡は 20 地域で確認され、その内、14 地域で 2006 年より前の爪跡も見られた。2006 年秋のみツメ跡が見られたのは 1 地域だけであり、2006 年より前の爪跡だけがみられた地域は無く、どの時期も全く爪跡が見られなかったのは 2 地域であった。2006 年秋は、カキノキのツキノワグマの痕跡（爪跡）からも県内山麓にツキノワグマが大量に出沒したことが窺えた。

朴木英治・渡辺 幸一：立山における酸性雨観測結果(2011)

立山と富山市市街地で同時に行っている標高別酸性雨観測の2011年の観測結果を報告する。観測地点は立山有料道路沿いの桂台から室堂平までの間の10カ所と科博屋上の計11カ所である。観測期間は7月～11月中旬までで、全地点による観測は10月初旬まで行った。降水量は富山市市街地で少なく、立山では多くなり、標高が高くなるほど降水量が増加した。酸性雨の強さは、市街地で強く、立山で弱くなる月と、市街地から立山の室堂平まであまり変わらない月とがあった。酸性雨の原因となる硝酸イオンや非海塩性硫酸イオンの濃度は市街地で高く、立山では標高が高くなるほど濃度が低下する傾向が見られた。これらについては、例年と変わらない傾向であった。

資料

二橋 亮・二橋弘之・新堀修・川村日出男：富山県のトンボ（2011年度記録）

おもに2011年（調査日数：二橋201日、新堀113日）に得られた知見を、採集・撮影記録とあわせて報告する。なお、新堀の記録には一部2006～2008年のものも含み、川村の記録は2006年から2011年までの6年間の記録である。

2011年の調査では、近年県内で記録のないホンサナエ、オナガサナエ、遠方からの飛来種であるオオギンヤンマ、スナアカネ、イソアカネ、ハネビロトンボ、アメイロトンボ、生息地を未調査であるムツアカネおよび県内での産地が限られるムスジイトトンボ、オツネイトトンボ、ヒメサナエ、アオサナエ、タイリクアカネの13種を除いた75種が確認された。これら以外に、クロスジギンヤンマとギンヤンマおよびマユタテアカネとマイコアカネの種間雑種も確認された。

市町村単位(旧市町村区分を考慮)の初記録は、福野町(現南砺市)のモートンイトトンボ、新湊市(現射水市)のハラビロトンボ、下村(現射水市)のネキトンボ、上市町のトラフトンボ、コフキトンボであった。初見日の更新は、ヤマサナエ(4月21日)、ハッチョウトンボ(5月3日)、キトンボ(7月6日)の3種、終見日の更新は、オナガアカネ(11月28日)、キトンボ(12月11日)、ヒメアカネ(12月14日)の3種であった。

根来 尚：富山県におけるハナバチ類の訪花記録

1992年から1999年の間、富山県内の高山帯から海岸まで22カ所で調査したハナバチ類6科24属195種の62科約300種の植物への訪花記録を報告した。

訪花記録の多かったハナバチは、キオビツヤハナバチ(訪花植物86種)、ヤマトツヤハナバチ(85種)、ヒメマルハナバチ(73種)、オオマルハナバチ(68種)、アカガネコハナバチ(64種)で、訪花ハナバチの多かった植物は、ニガナ(訪花ハナバチ69種)、タニウツギ(65種)、ヒメジョオン(54種)、ノコンギク(54種)、ハルジオン(42種)であった。

南部久男：富山市におけるツキノワグマの出没記録(2011年)

2011年の富山市のツキノワグマの出没状況を報告した。富山市全体で3～11月に30メッシュ(1メッシュは約1km×1km)、38件の出没があり、3～8月には、23メッシュ、28件、9～11月には8メッシュ、10件の出没があった。2011年の秋の出没は、メッシュ数、出没件数とも2006年及び2010年秋の大量出没年よりはかなり少なく、2007年秋と同程度であった。